令和4年度　学校評価自己評価表

学校教育目標
気づいて　考えて　やってみる！
―　自分を大切に　人を大切に　力を合わせて　―

めざす子供像
- ○ チャレンジする子
- ○ 思いやりのある子
- ○ 考え学び合う子

めざす学校像
- ○ 子供が主役の学校
- ○ 出会いと感動のある学校
- ○ 地域と共に歩む学校

めざす教職員像
- ○ 確かな授業力を持つ教職員
- ○ 豊かな人間性を持つ教職員
- ○ 愛情と使命感に満ちた教職員

分かる喜びを味わい、確かな学力を身に付けた「自ら学ぶ学習者」の育成

	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための計画	評価指標(評価方法)	担当	目標値	自己評価			改善方策	評価(適切かどうか) ○適切	△まあまあ	×不適切	学校関係者評価 コメント
								達成度	評価					
知	教科等での学びを充実させ、生きる力の基礎となる学力を身に付けた児童を育成する。	○基礎基本の学力の定着を図る。	・協調学習（授業改善）、基礎学力、探究学習、特別支援教育、学習環境（図書館）の５つのプロジェクトチームでアイデアを出し合い、「探究的な学びで育てる「自ら学ぶ学習者」の育成に向けた具体的取組をトライ＆エラーしながらバージョンアップ図る。 ・月１回以上、プロジェクトチームとして集まる機会を設ける。 ・職員室付近にプロジェクトチームコーナーを作り、現在の取組み内容を視覚化させる。	○単元末テストにおいて、正答率80%以上の点数をとれる児童の割合。	教務部	80%	・各プロジェクトチームそれぞれ、つけたい力を意識した取り組みの工夫や改善を話し合い、それを全職員で共有できるように掲示板で紹介することができた。 ・単元末テストにおいて、正答率80%以上の点数を取れた児童の割合は69.5%であった。 ・プロジェクトチームコーナーを見える化したことにより、それぞれのチームの活動が全職員に伝わることで、各チームの活動が活発になりつつある。	86%	B	・単元末テストの結果をもとに、改善方策を考える。授業のゴールの共有と、ふり返り活動の充実を図る。各学年ブロックで取組目標を設定した。月に1回、取組の進捗状況をアンケートで確認し、改善しながら学力の向上の取組を進める。 ・認知機能向上のためのコグトレオンラインを全校で取り組む。 ・各プロジェクトチームで話し合ったことを毎月掲示板で紹介することにより、それぞれのチームの活動の活性化を目指す。				
徳	自他を尊重する豊かな人権感覚を持った児童を育成する。	○自己指導能力の育成を図るとともに、思いやりの心を育てる。	・「あいさつ・返事、はきものそろえ、無言掃除、黙動、時間」について、「加計っ子五つの約束」とし、掃除に重点を置いて取り組み、学校を大事にする喜びや充実感を持たせる。	児童・教師アンケートにおいて、掃除に関する項目に、肯定的評価の割合	生徒指導部	80%	・児童への掃除の視点として、「見つけそうじ」（掃除すべき箇所への気づき）、「がまんそうじ」（話をせず集中して掃除をする）、「しんせつそうじ」（気配りのある工夫した掃除）という全校共通の言葉を用いて指導に当たった。 ・上記３項目で児童にアンケートを行い、肯定的な評価は80.3%であった。 ・実態より自己評価が高い児童・学年が見受けられるが、すみずみまできれいに掃除をすることについてはできるようになってきている。	103%	A	・児童会の美化委員会を中心として、掃除の視点や方法等について啓発する活動を仕組み、より児童主体の活動となるようにする。 ・掃除朝会等を計画し、全校で統一した意識付けを行い、全職員が全児童に同様の指導ができるようにする。 ・児童に対する定期的なふり返りの場を与え、掃除に対する意欲付けをする。				
体	健康・安全への知識と意識を持ち、自らの生活をよりよくする実行力のある児童を育成する。	○体力の向上を図り、心と体を整える。	・体育的行事前に個人目標を設定し、意欲づけを行う。 ・走力テスト（50m走、シャトルラン）、体力テストの実施 ・体育の授業等の充実（アクティブ・チャイルド・プログラムの活用）	○体育的行事で立てる個人の目標を達成した児童の割合 ☆中間：走力テストの比較 ☆最終：マラソン大会 ※アクティブ・チャイルド・プログラムの実施を80%(参考値)	保健体育指導部	75%	・体力テスト（50m走、シャトルラン）で、6月より11月の方が数値が上回った児童は、50m走が56%、シャトルランが60%であった。（平均58%）走力や体力を高める運動（マラソン、なわとび）を実施し冬季の体力の向上をめざしたい。 ・アクティブ・チャイルド・プログラムをもとにした運動を週１回以上実施した学年は83.3%であった。（参考値）	77%	C	・マラソン大会では試走の記録を目安に個人目標を設定し取り組ませる。 ・冬季はなわとびを中心に、体力の向上をめざす。 ・アクティブ・チャイルド・プログラムを実施してみて、良かった点や改善点を他の学年と共有する。効果を把握するために、児童アンケートを実施する。				
信頼される学校	地域とつながり、教育実践を通して信頼される学校を構築する。	○教職員一人一人が学校運営への参画意識を持つ。	・学校評価や研究推進について分掌とプロジェクトチームで行うことにより、１つの目標に向かって教職員のアイディアが実行できるようにする。また、組織の再編や取組の重点化を図る。 ・人材育成を意識して経験年数に応じた役割分担を行い、業務内容や進捗状況把握、仕事の優先順位や軽重などの助言や評価を管理職が積極的に行う。 ・時間外勤務を原則月４５時間以内に収められるように取組を行う。（定時一斉退庁日、早帰りday）また、持ち帰り業務の削減に向け、見通しをもって仕事が行えるように、ゆとりをもった計画を立てる。	加計小学校版働き方改革アンケートの「経営目標の達成に向けた取組の立案に全ての者が参加している」「管理職はこれまでの慣例にとらわれない新しいアイデアについても積極的に支援している」の項目における肯定的評価の割合。	総務部	90%	・ＰＴについては、組織を５つに再編し、全教職員で組織し活動を進めたことで、教職員の意見や考えが出しやすくなっている。今後は、掲示板、クラスルーム等を活用し、各部の取組を共有していく。 ・加計小学校版働き方改革アンケート「学校運営への参画意識」の２項目において、肯定的評価の割合が100%であった。ただし、「やりがいを感じている」の肯定的評価の割合は89.5%であった。これについての取組の改善を考えていく。 ・保護者アンケート「信頼される学校」に関する3項目において、肯定的評価の割合が93.1%であった。 ・定時一斉退庁日、早帰りday、入校時刻、退校時刻の設定等、職員の勤務時間外勤務時間の削減に向けた取組を進めた。行事予定を早めに提示したり、業務の締め切り日の見える化を図り、見通しをもって計画的に仕事が行えるようにエ夫した。	111%	A	・PTの取組については、掲示板、クラスルーム等を活用し、各部の取組の様子を情報共有していく。また、よいと思ったことは各自で積極的に実践していく。 ・分掌部会や低・中・高学年のブロック会など、教職員の横のつながりをつくる。また、自主研修等の時間を使い「自分達がやってみたいこと」を大切にし、教職員の「やりがい」につなげていく。 ・今後も、学校評価保護者アンケートに寄せられた保護者の要望に対し丁寧な聞き取り等を行い、ＨＰ・学校だよりで改善したことをお知らせしていく。学びポケットの活用で、保護者への連絡や相談には、早く丁寧に対応していく。 ・週1回の「お先デー」、月1回の「定時一斉退庁」の実施を通して、計画的に仕事をすることや、時間の使い方を意識して仕事をするようにする。また、家への持ち帰りの状況について、個別の声かけや面談を通して実態を把握し、助言をしたり、仕事分担を考えたりしていく。				

評価基準		
	A	達成率が９０％以上
	B	達成率が８０％以上９０％未満
	C	達成率が６０％以上８０％未満
	D	達成率が６０％未満